

デジタル・アーカイブの取組とアーカイブ間の連携について

東京国立博物館

学芸企画部博物館情報課

情報管理室長 村田良二

デジタル画像の利活用

館内での活用

展示室、資料館での利用者サービス

Web サイト、出版、調査研究、修復記録

スマートフォンアプリ（e 国宝、トーハクナビ等）、来館者向けデータベース

外部への提供

TNM イメージアーカイブ

DNP アート・コミュニケーションズへ窓口業務を委託、料金体系を整備

商業利用（書籍・雑誌、テレビ番組、広告・テレビ CM 等）

有償。利用形態や部数によって細かく価格設定している。自己収入の柱の一つ。

公共利用（博物館・美術館、地方公共団体）

無償。所蔵品の貸与に伴うものが多い。

学術利用（学術論文等）

有償（低価格）

著作権等の処理は利用者自身が行う

作品の著作権保護期間内の場合、権利者の許諾が必要

他館の所蔵品や個人蔵の作品の場合、所有者の許諾が必要

無償利用

非商業利用で、部数等の条件を満たす場合

申し込み不要、Web サイトから直接ダウンロードして利用可能

低解像度で十分な学術論文や、個人の Web サイト、NPO 等の利用を想定

学術論文は成果物を提出（年間 10～20 件程度）

Creative Commons の利用も検討したが、館が著作権を有さない画像（平面作品の写真など）が多いため、独自に条件等を整備した。

外部提供に関わる問題

館の資産として収益につながる活用が求められる一方、館が著作権を保有しない画像などでは、第三者の利用を制限する根拠に乏しい。

アーカイブ連携

事例

e 国宝

東京、京都、奈良、九州の4つの国立博物館が所蔵する国宝・重要文化財の高精細画像と5言語による解説。

4館のデータを1つのデータベースにまとめた

Webサイト、スマートフォンアプリ、来館者向けソフト等と同じデータベースを活用
国立国会図書館サーチでも連携検索可能

Google Art Project

Googleが世界各地の美術館・博物館の画像をアーカイブし、展示室内をストリートビューで見られるもの。当館Webサイトにリンクされることから、海外ユーザのアクセス増を期待して参加したが、効果はほとんど不明。

アーカイブ連携と博物館業務

美術館・博物館は企画展などで相互に作品を貸借する機会が多い。また、互いに関連性の深い作品や資料があちらこちらに分散して所蔵されているケースも多く、調査研究に際しても関連資料の所蔵先を確認することが必須となる。このため、多くの機関の所蔵品に関する情報が横断的に利用可能になれば、一般利用者だけでなく、学芸員にとっての利用価値も高い。

多数の機関のアーカイブが連携するには、まず各館で公開することが前提となる。しかし利用する側としては精度の良い画像、詳細な記述、参考文献などが整備されていることが望ましいが、提供する側としては時間と労力がかかる。多くの館では、特に展覧会の開催と集客が重視される傾向が強く、データ整備に十分な労力を割けていない。

各館のデータを互いに利用できるような環境を整えば、貸借に関わる処理の効率化や、調査研究環境の強化だけでなく、災害時における文化財レスキュー活動に役立てる、あるいは来館者向けコンテンツの開発に活用するといったことも期待できる。